

電話詐欺の手口①（警察官騙り）

警察官騙り

- 犯人からの電話
A県警の警察官 ~ 国際電話番号や、末尾が「0110」の番号を使って電話がかかってくる。①
「あなた名義のキャッシュカードが詐欺事件の犯人宅から発見された。」
「あなたには、犯人からお金をもらって銀行口座を提供したとの容疑がかかっている。」
「身の潔白を証明するためには、今すぐB県警の事情聴取に応じる必要がある。」
(B県警の警察官に代わる)
- B県警の警察官 ~ 「事情聴取はSNSのビデオ通話で行う。②」などと言われ、ビデオ通話に移行する。
SNSのビデオ通話で、警察官(偽物)から警察手帳や逮捕状、凍結捜査差押許可状(別添)などを見せられる。③
「身の潔白を証明するためには、あなたの口座内のお金を調査する必要がある。④」等と言われ、個人や法人名義の口座に送金するよう指示される。⑤



ワンポイント解説です

不審点①

国際電話番号や、末尾が「0110」を使った番号から電話がかかってくる。

見破るポイント①

警察官が国際電話番号から電話をかけることはありません。
名乗った警察署に電話して、確認することが重要なポイントです。

不審点②

事情聴取はSNSのビデオ通話で行う。

見破るポイント②

警察官がSNSで取調べや事情聴取を行うことはありません。

不審点③

SNSのビデオ通話で警察官(偽物)から警察手帳や逮捕状、凍結差押許可状などを見せられる。

見破るポイント③

警察官がSNSで警察手帳や逮捕状などを提示することはありません。

不審点④

身の潔白を証明するためには、あなたの口座内のお金を調査する必要がある。

見破るポイント④

警察官が口座内の現金を調査することはありません。
また、誰が入金したかも特定はできません。

不審点⑤

指定した個人や法人名義の口座に送金するよう指示される。

見破るポイント⑤

警察官が送金を指示することはありません。
まして、関係のない個人や法人名義の口座にというのは全くの嘘です。

※ 電話を切ったら、すぐに相手が名乗った警察署に電話して確認しましょう。

